

4. 駅周辺地区別ビジョン

4-1 各駅周辺地区と拠点性の考え方

上述の方向性を踏まえ、各駅周辺地区の位置づけを整理すると以下ようになる。この位置づけをもとに、次章以降、駅周辺地区ごとに「コンセプト」と「まちの将来像」を設定するとともに、またそれらを実現するための「まちづくりの取り組み方針」を「空間イメージ」「機能イメージ」「交通イメージ」「生活イメージ」の4つの側面から整理する。

○拠点性と地区との関係概念図

	JR勝川駅周辺	JR春日井駅周辺	JR神領駅周辺	名鉄味美駅周辺	参考:JR高蔵寺駅周辺
広域交流 拠点					
都市交流 拠点					
地域交流 拠点					

○拠点地区と交流内容

	生活交流	市民交流	文化交流	観光交流	産業交流	国際交流
JR勝川駅 周辺						
JR春日井駅 周辺						
JR神領駅 周辺						
名鉄味美駅 周辺						

4-2 JR勝川駅周辺地区

(1) コンセプトとまちの将来像

コンセプト

交流活性とにぎわい再生による歩いて楽しい 集約効率的な市街地モデル拠点

まちの将来像

◇ハード・ソフト両面での地区の一体化

JR中央本線の高架化とそれに伴う新駅舎の整備、駅下道路の開通などにより、駅をとりまく状況は大きく変わり、これまで線路により分断されていた南北地域の行き来がしやすくなる。また、新たにできる高架下空間も有効に利用することで、空間的なつながりが強まるとともに、人々の交流も頻繁に行われ、駅周辺がひとつの地域として一体感が醸成されている。ひとつになったコミュニティを土台に自主的なまちづくりが活発になり、将来に亘って魅力ある地区としてその価値の維持・向上が続けられている。

◇駅前と商店街の連携がまちのにぎわいを生む

駅前では再開発ビルなど近代的な建物が多く、お洒落な商業施設や便利な都市機能が集中して近代的なスマートさがある一方、そこから続く駅前通り商店街では生活に密着し、人情味あふれた懐かしい雰囲気がある。この区間は、イベントやパフォーマンスなども行われ、駅から歩いて様々な楽しみを味わうことができる。

◇自転車中心の環境にやさしい交通環境の実現

他地域よりも自転車利用者が多いという特徴を活かし、快適に安心して通行できる自転車専用道のネットワークや使いやすい駐輪場が適所に整備されるなど、人々が快適なサイクルライフを送ることができるサイクルタウンとしての環境が形成されている。また、バス交通網も充実し、徒歩、自転車、バスを中心とした環境にやさしい交通環境が整っており、近隣のモデル的な地区となっている。

◇まちなみと緑が調和した美しい景観の創出

駅前には商業施設や各種サービス施設、住宅など様々な機能が詰まった便利な中高層の建物が集積する一方で周辺は中低層の落ち着いた住宅地ができている。また、地区内の通りは街路樹などの緑が連続して張り巡らされ、地蔵川も潤いの場となっているなど、建物と緑がうまく調和したまちなみが形成されている。

◇多様な住民が住み、展開される多様な交流

郊外からの住み替えや市外からの転入が進み、単身者やファミリー、高齢世帯まで多様な人々が住んでいる。その住民による多様な交流も生まれている。同時にホテルプラザ勝川、ルネック、再開発ビルなど交流の場となる施設が確保されている。

(2) まちづくりのイメージ

空間イメージ（土地・建物）

▽駅前らしい調和のとれた景観の創出

- ・建物や屋外広告物などのまちの景観コントロールを行うとともに、健全で秩序ある建物利用を進め、調和のとれたまちなみを形成する。
- ・駅前にふさわしいシンボリックな空間を創出し、駅前らしさを演出する。

▽JR中央本線高架下空間の有効活用

- ・地区の活性化や駅の利便性の向上に資するよう、高架下空間を駐輪場などに活用するとともに、JRと連携しながら商業施設の誘致を行う。

▽緑地の形成と緑化の推進

- ・地蔵川沿いに緑地空間を形成するとともに、水辺に市民の憩いの場を形成する。
- ・街路樹や公園などの緑を増やし、地区全体に潤いを創出する。

▽地区活性化に向けた土地の有効活用

- ・都市計画における用途地域の見直しなどを含め、駅周辺の低・未利用地の有効活用を図る。
- ・特に、駅近隣については土地の高度利用化を進め、複合用途の高層建物の立地を誘導する。周囲については中低層のゆとりある市街地を形成していく。
- ・駅北側の古い既成市街地については、地域住民が憩えるポケットパークなど不足するオープンスペースの確保を進める。

機能イメージ（機能・施設）

▽勝川駅前通商店街のモール化によるにぎわいづくり

- ・商店街や周辺において、自動車の通行制限などの規制の見直しやバリアフリー化などを進め、駅から商店街まで、人が楽しく安全に利用できる動線と交通環境を確保する。
- ・駅前の商業施設と商店街が連携して、個性ある雰囲気づくりや憩いの場づくりなど人がにぎわい、集うことのできる環境を形成する。
- ・駅前から商店街にかけての一体的なにぎわいづくりのために、動線上にある駅前公園やペDESTリアンデッキ、ロータリーなどの空間やホテルプラザ勝川、ルネックなどの施設を有効に活用していく。

▽駅中心に複合的な都市機能（商業・業務・文化など）の集中配置

- ・駅舎や駅周辺の施設を活用し、幅広い都市施設を集約することで機能性を高め、駅周辺に來れば日常生活の大半がまかなえるようなワンストップサービスの実現を図る。
- ・居住者などの生活利便に資するような新しいサービス機能の創出を図る。

▽駅周辺への中高密な居住施設の導入

- ・駅周辺の利便性の良さを活かして、駅前へ中高密な居住施設を誘導し、郊外からの住み替えや市外からの転入などの促進を図る。また、名古屋都心への近距離性も配慮し、名古屋への通勤・通学者の居住の受け皿としても機能させる。

▽駅南地区への商業機能の導入

- ・駅南地区に不足する商業施設の立地誘導を積極的に行い、生活利便性の向上を図る。

交通イメージ（公共交通、自動車、自転車、歩行者）

▽自転車利用を重視した交通環境の確保と駐輪の適正化

- ・高架下空間などを活用し、駅利用者のための快適な駐輪場を確保するとともに、自転車等放置禁止区域の設定など違法駐輪対策も実施する。
- ・地区内の高い自転車利用ニーズを受け、自転車専用の道路を確保するなど、エコロジーの観点からも自転車利用を促進し、先進的モデルとなるサイクルタウンを目指す。

▽駅周辺における安全な歩行環境の確保

- ・商店街のバリアフリー化を推進し、歩行者や生活者の安全性・快適性を確保する。

▽駅発着のバス路線等の充実

- ・バス交通の利便性を図るため、バス路線網を充実させ、他の市街地へのアクセスを向上させる。
- ・特に駅南地区については、バス路線の新設や見直しなどを積極的に進めていく。

▽城北線のJR勝川駅への乗り入れの検討

- ・城北線のJR勝川駅への乗り入れ実現を目指し、JRに対して継続的に要望していく。

生活イメージ（生活・暮らし）

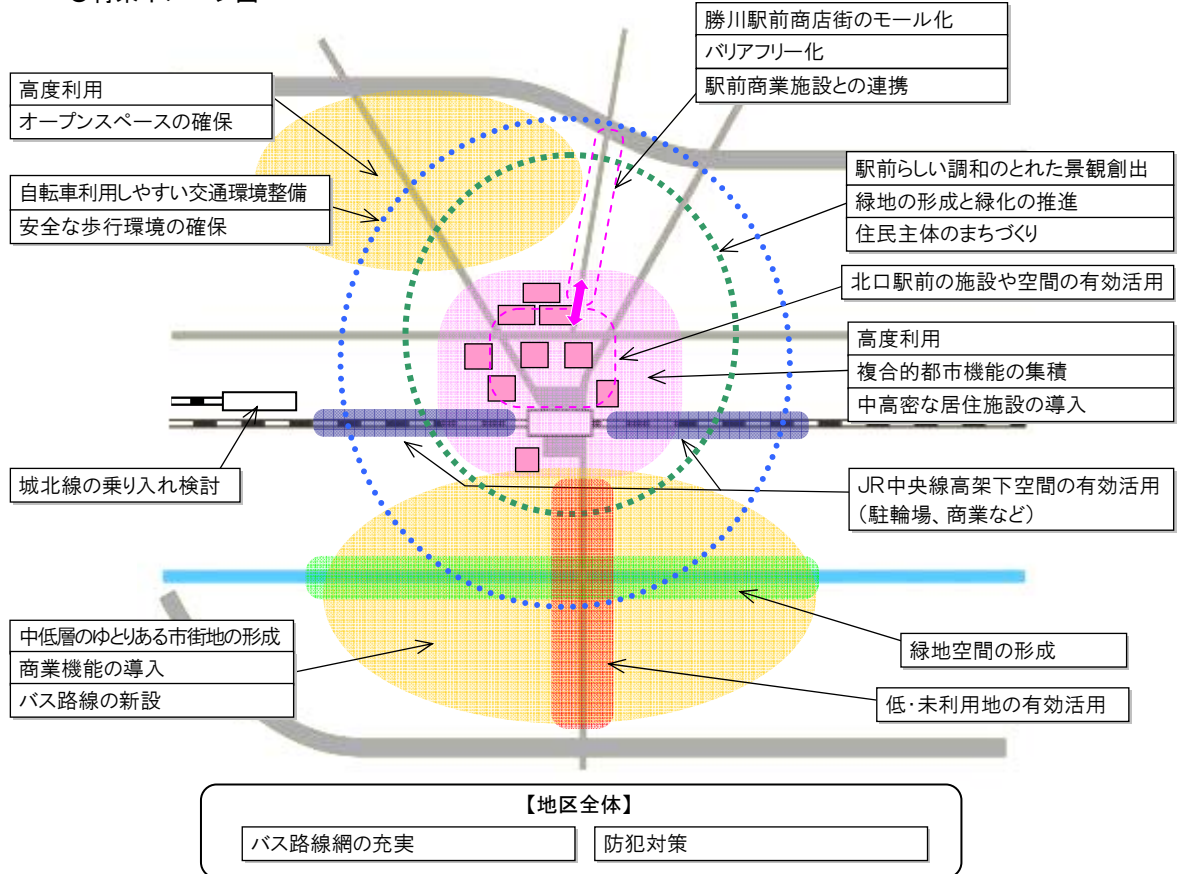
▽地域住民によるまちづくりの推進

- ・地区内の居住者層の変化を見据え、コミュニティのさらなる活性化を図っていく。
- ・地域住民を母体として、地区の資産や価値を維持向上させていくために、イベント運営から景観づくり、土地活用などを含めた総合的なまちづくりを進めていく。

▽防犯対策

- ・駅前広場や駅下道路などに、必要に応じて防犯カメラの設置を進める。

●将来イメージ図



4-3 JR春日井駅周辺地区

(1) コンセプトとまちの将来像

コンセプト

高度な都市機能の集積と 交通結節機能の強化による広域拠点

まちの将来像

◇駅ビルと駅周辺開発による拠点にふさわしい新たな核の創出

拠点の中心には多機能で利便性の高い駅ビルが整備されるとともに、駅南東側の土地利用転換によって居住や複合機能を有する新たな市街地が姿を現している。それらを核として、周辺商業の活性化、新しい都市型産業の立地なども進み、にぎわい空間が形成されている。これらのまちなみも、拠点にふさわしい風格あるものとなっている。

◇駅周辺への一体的機能集積による広域拠点の形成

広域的な交通結節点である駅と、行政・文化機能の集まる市役所周辺の2つのコアが今まで以上に便利なバスネットワークでつながるとともに、行政・文化・業務・商業機能といった都市機能のより一層の高度化と集積が進むことで、2つのコアが一体の地区として、全市的、さらには市域を越えた広域的な拠点を形成している。

◇バス交通、自由通路による交通結節機能の充実

交通結節点としても、充実したバス交通によって市内はもちろん、名古屋市守山区や小牧市桃花台など市外を結ぶアクセスが充実し、人の往来が盛んになっている。また、駅への自由通路などの整備によって、南北地域の行き来も便利になっている。

◇川や緑、農地を活かした潤いのあるまち

都市的な発展が進む中でも、街路樹の緑や近接する庄内川や内津川、地蔵川など河川空間を活かした水とのふれあいの場や駅南東の農地の一部をいかした農とのふれあいの場などが身近にあり、人々がいつでも潤いとゆとりを感じられるやさしい環境のまちが形成されている。

◇歩いて暮らせる快適な駅南地区

駅の南側では、中低層のゆとりある居住地形成が進み、歩いていける範囲にバス停があるなど公共交通がより充実するとともに商店など各種の生活サービス施設も立地し、快適な生活をおくることができる。

◇多様な住民による文化的なにぎわい交流の形成

快適な居住環境が整うとともに、郊外からの住み替えや市外からの転入も進み、多様な年代・世帯の人々が暮らしている。そして、人々によって市民交流から国際交流まで幅広い交流が活発に行われ、文化的なにぎわいが形成されている。

◇地域主導ですすめるまちづくり

地区内の住民を中心としたまちづくり協議会が設置・運営され、自主的なまちづくり活動と同時に、土地活用などを含めた総合的なまちづくりのマネジメントが進められ、より魅力的な市街地の再形成が地域主導で行われている。

(2) まちづくりのイメージ

空間イメージ（土地・建物）

▽市の顔にふさわしい景観と特徴的な雰囲気への創出

- ・建物や屋外広告物などの景観コントロールを行うと同時に、まちの風紀も整え、市の顔らしく風格と秩序あるまちなみを形成する。
- ・駅前において、シンボル空間を整備するなど特徴的な雰囲気作りを行う。

▽駅南東側の土地利用転換による新拠点の形成

- ・開発余力の高い土地の利用を見直すことで、新たな拠点となる複合的な施設導入や憩いの場としての利用を図るなど、にぎわいと潤いを生み出す取り組みを進める。
- ・あわせて、その地区へアクセスするための連絡道路、名古屋からのアクセス道路などの基盤整備を進める。

▽地区活性化に向けた土地の有効活用

- ・駐車場や空家などの低・未利用地を有効活用し、駅周辺にふさわしい市街地を形成していく。
- ・特に、駅近隣では建物の高層化などにより、土地の高度利用化を促進する。
- ・駅北口の市街地においては、土地・建物の効率的な利用やオープンスペースの形成を積極的に進めていく。
- ・駅南側は中低層中心のゆとりある市街地を形成していく。

▽河川を活かした自然空間の形成

- ・市街地内にある地蔵川や隣接する内津川・庄内川の河川空間については、誰もが自然とふれあえる空間や憩いの空間として整備を進める。

機能イメージ（機能・施設）

▽駅舎の橋上化・自由通路の整備と広域的機能の向上

- ・駅利用を快適にするとともに、地域全体の一体化を進められるよう、自由通路の整備を進め、あわせて駅舎を改修する。
- ・さらには、市の玄関口、広域拠点の核として来訪者の交流を促進し、にぎわいづくりの中心施設となるよう、商業や各種サービス窓口、居住など様々な施設を集約させた複合的な駅ビル化などを進め、駅の機能性、シンボル性を向上させる。

▽駅周辺での中高密居住と周辺でのゆとりある居住地の形成

- ・市の中心的な拠点性を活かし、駅周辺へ中高密な居住施設を導入し、郊外からの住み替えや市外からの転入などの促進を図る。
- ・駅南地区については、公共下水道などの基盤整備を行うとともに、ゆとりある居住地を形成する。

▽広域的な産業・商業機能の形成と集積

- ・市の中心的な拠点らしくにぎわいのある空間を形成するため、また居住者の生活利便のため、駅前など既存商店の活性化を図る。駅南地区についても、同様に既存商店街の活性化と新規産業・商業などの立地誘導を図る。

交通イメージ（公共交通、自動車、自転車、歩行者）

▽バス交通の拠点性の強化

- ・全市、市外からの広域的なバス交通の拠点としての、路線の充実を図る。
- ・特に、駅南地区についてもバス路線を確保するなど、公共交通の利便性を高める。

▽駅～市役所周辺地区のネットワーク強化

- ・駅周辺地区と市役所周辺地区の間の連絡をスムーズにし、両地区の各種機能を効率よく利用できるようにするため、コミュニティバスなどを運行し、公共交通ネットワークを強化する。

▽駅北口広場等の再整備

- ・鉄道からバスなど他交通への乗り継ぎや、歩行者・自転車・自動車などによる駅へのアクセスなどをより快適にするために、周辺の道路網や交通事情の変化を踏まえて、駅北口広場のロータリーやタクシーベイ、待車場などのレイアウトについて、必要に応じ見直しを図る。

▽駅周辺における自動車利用の適正化

- ・居住者をはじめ、通勤・通学などによる駅利用者など、人の行き来が特に多い駅周辺において、自動車の交通規制や歩道空間の見直しなどを行うことで、安全でゆとりある歩行者・自転車の通行環境を確保する。

▽安全でゆとりある歩行・自転車の交通環境の確保

- ・駅南北の連絡地下道やそのほか危険性の高い道路において交通上・防犯上の安全対策を進める。

▽駅南駐輪場の有効活用

- ・駅南にある駐輪場を立体化し、地域に必要な公共施設の導入を図るなど、駅南地区の生活環境の向上を図る。

生活イメージ（生活・暮らし）

▽住民主体のまちづくりの推進

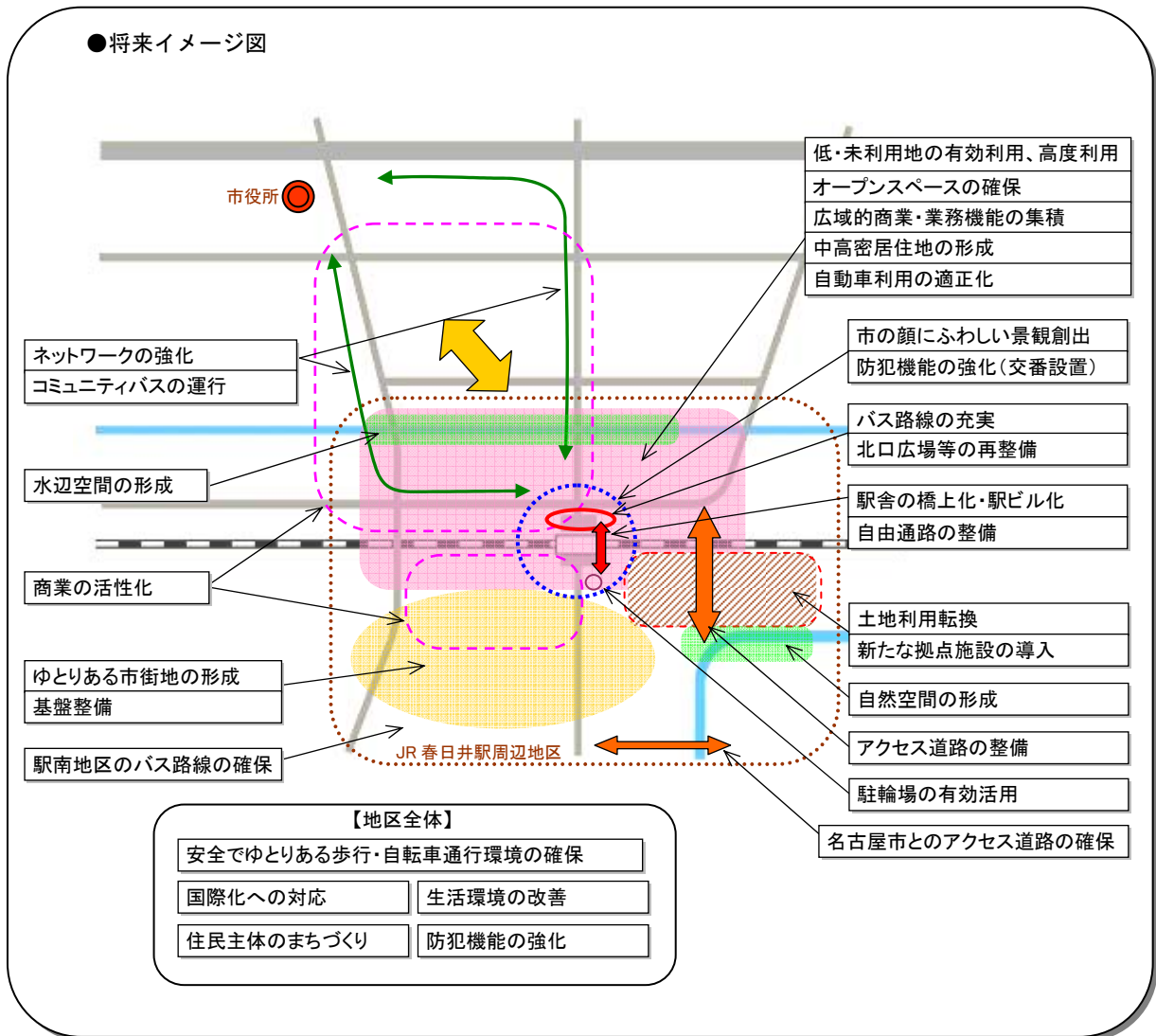
- ・商店街や町内会などの既存コミュニティを中心にコミュニティのさらなる活性化を図る。
- ・良好な市街地形成を自主的に進めていくための協議会を設置・運営するなど、住民主体のまちづくりを進める。

▽国際化への対応

- ・住民の国際化などへの対応として、サイン類の外国語表示などの取り組みを進める。

▽防犯機能の強化

- ・駅前へ交番を設置するなど、駅前の治安・防犯対策を進める。
- ・駅前広場や自由通路などに、必要に応じて防犯カメラの設置を進める。



4-4 J R神領駅周辺地区

(1) コンセプトとまちの将来像

コンセプト

快適乗り換えからにぎわい広がる学園まちづくり拠点

まちの将来像

◇市内外から鉄道利用者が集まる交通拠点

自由通路の整備や、駅周辺への使いやすいパークアンドライド駐車場の形成、市内外も含めた駅へのバス交通の充実など、駅の利用価値を高める取り組みが進むことで、名古屋市守山区や小牧市など周辺地域をはじめ市内外からJ R中央本線を利用する通勤者や通学者が集まり、広域的な交通拠点を形成している。

◇駅南北間の交流からのにぎわい創出

自由通路の完成により、周辺住民や中部大学の学生、パークアンドライド利用者による南北地域間の人の行き来が盛んになるとともに、自由通路出入口周辺の商業利用や駅前通りにおける商業集積も進み、新しくなった駅を中心に人々の交流が生まれている。この交流を土台に、学生と地域が一体となったまちづくりなど、活性化が図られている。

◇快適でゆとりある歩いて暮らせるまちの実現

駅周辺において、区画整理後の市街地の形成にあわせて、商業や各種サービス施設など生活に便利な施設の立地の他、街路樹などによる緑化などが進み、周辺住民にとって快適でゆとりある居住空間が広がっている。

◇子どもから高齢者まで安心して暮らせる生活の場

幹線道路をはじめ、住宅地内の生活道路や跨線橋など、人と自動車の安全な交通環境が確保されるとともに、防犯対策や消防・救急対策も充実し、子どもから高齢者まで安心して暮らせる生活の場が形成されている。

◇身近で自然を感じられるまち

庄内川・内津川への近接性や近隣の農地を活かした自然とふれあえる空間が整備され、住民が身近で潤いを感じることができる。

(2) まちづくりのイメージ

空間イメージ（土地・建物）

▽地区活性化に向けた土地の有効活用

- ・駅周辺においては、商業の立地が地区の活性化に資するよう、都市計画における用途地域の見直しなどを含め、土地の有効活用を図る。

▽中低層中心のゆとりある市街地の形成

- ・戸建住宅や中層程度の共同住宅などを中心に、空間的ゆとりをもって立地する快適な居住地となるように市街地の形成を進める。

▽自然空間の創出

- ・街路樹や公園などの緑を増やし、地区全体に潤いを創出する。
- ・駅南側については庄内川、北側については内津川を活用し、川にふれられる自然空間を創出する。
- ・駅北側にある農用地を活用し、都市型市民農園など市民が農とふれあえる場を形成する。

機能イメージ（機能・施設）

▽自由通路出入口周辺の商業利用

- ・自由通路出入口周辺は、通勤・通学者や周辺住民の利便性・安全性を高めるとともに、にぎわいを創出するため、出入口付近などで商業や各種の生活サービス施設の誘導を図る。

▽生活圏レベルの商業・サービス機能の充実

- ・居住者の利便性を高めるため、駅周辺に商業施設や医療施設、子育て支援施設などの生活利便施設の立地・誘導を促し、歩いて暮らせる便利な生活環境を整備する。

▽駅北口の有効利用

- ・駅北口においては、駅前広場や隣接する土地を含めて、駅利用者や近隣住民の利便性が向上するよう、商業施設や公共サービス、各種生活利便施設の立地・誘導を図るとともに、駐輪場を整備する。

▽パークアンドライドの促進による活性化

- ・北尾張中央道などによる広域的なアクセス性の高さや区画整理後の土地余力の高さ、名古屋市守山区など近隣市からの中央線利用ニーズの高さを踏まえ、駅周辺・徒歩圏内に計画的にパークアンドライド駐車場を誘導し、駅の利便性を高める。
- ・商業施設と居住施設の複合化などによるまちなみ形成を進めることで、利用者が駅からまちに出て交流を広げられる環境をつくり、まちの活性化につなげる。
- ・鉄道の本数増加など、乗り継ぎ環境の向上を目指す。

▽自由通路の安全な通行環境の整備

- ・自由通路は、通学・通勤利用など状況に応じて、子どもから高齢者まで誰もが安全に通行できる環境を確保する。

▽バス交通の充実

- ・駅北口から発着するバス路線を確保し、駅利用者の拡大によるにぎわいの創出を図るとともに、周辺住民の交通利便性の向上を図る。
- ・駅南口は、名古屋市の吉根・志段味地区とを結ぶバス路線を確保し、市外からの駅利用者の拡大を図る。

▽駅北口周辺における適正な自動車交通環境の確保

- ・駅への送迎など今後、交通量が増える駅北口周辺において、安全で適正な自動車交通を確保するため、北口広場入口への信号設置や内津川沿いなど周辺道路の拡幅を行うとともに、駐車場の確保を行う。

▽安全な歩行者・自転車通行環境の確保

- ・今後、交通量が増すと考えられる駅北口周辺や内津川沿い、また南北住宅地内においても、自動車交通の規制や歩道の整備などを行い、安全な歩行・自転車通行環境を確保する。
- ・駅の東西にかかる南北連絡道路は歩車道分離などにより安全性を確保する。

▽高架下駐輪場の改善

- ・駅南口にある東名高速道路下の駐輪場については、今後の利用者増を見据えて駐輪台数の確保や照明灯設置など、利用者が快適に、そして安心して利用できるよう改善していく。

生活イメージ（生活・暮らし）

▽さまざまな交流の促進

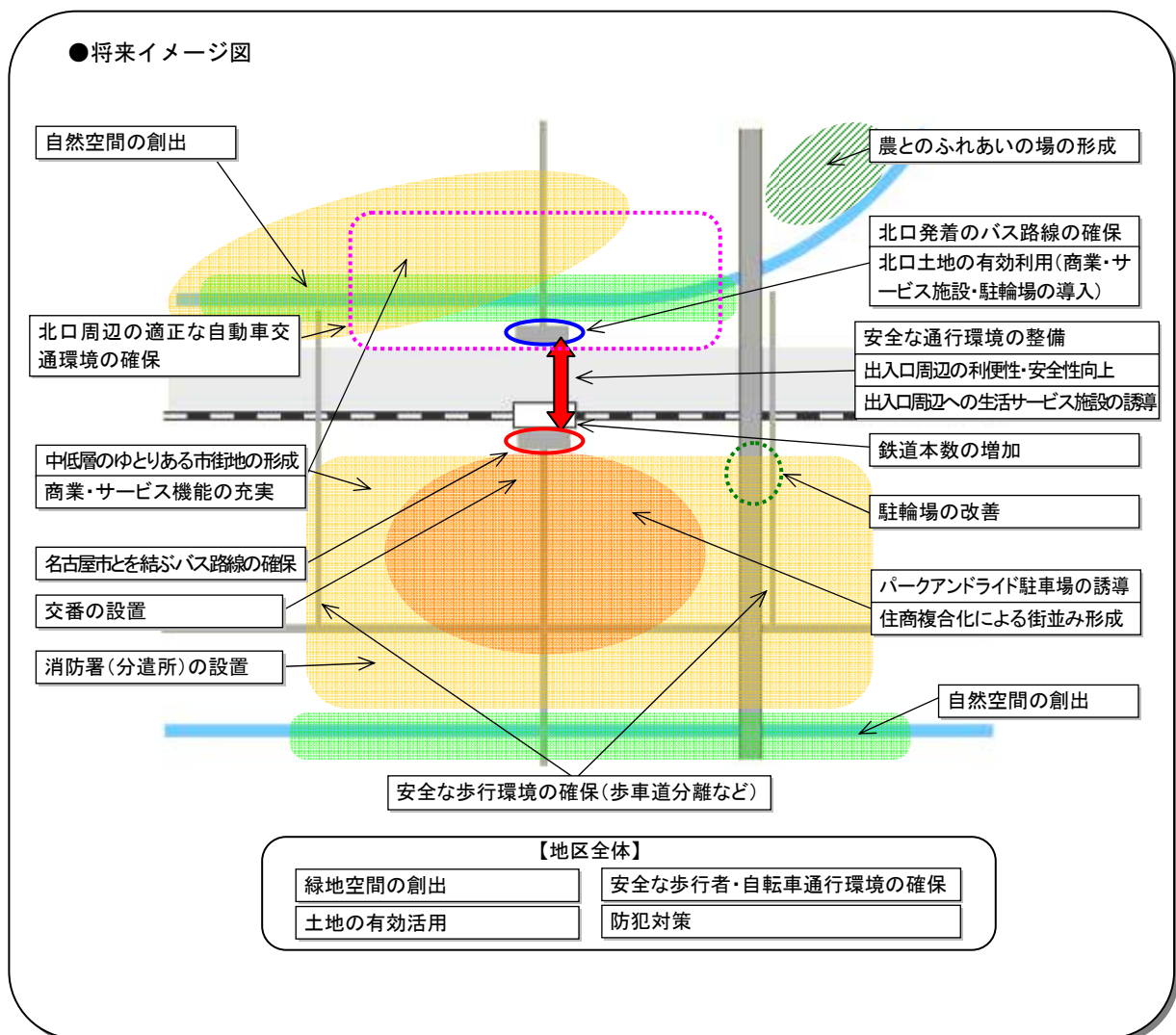
- ・中部大学生をはじめ、パークアンドライド利用者など地区外からの人が多く集まることから、駅利用者を中心とした交流を促進し、地域のにぎわいと活力を創出する。

▽防犯対策

- ・駅南地区においては交番を設置し、防犯・治安の充実を図る。
- ・駅前広場や自由通路などに、必要に応じて防犯カメラの設置を進める。

▽消防・救急対策

- ・火災や急病時など緊急時の迅速な対応が確保できるよう、駅南地区において、消防署（分遣所）の設置を進める。



4-5 名鉄味美駅周辺地区

(1) コンセプトとまちの将来像

コンセプト

駅活用による人と暮らしのコミュニティ形成モデル拠点

まちの将来像

◇便利な駅と快適な生活環境

駅舎への東側からのアクセス通路やエレベーターなどが整備され、駅利用者の利便性が向上しているとともに、駅前のロータリーをはじめ、周辺道路の改善により、駅周辺地区の交通環境が改善されている。

◇既存コミュニティを活かしたまちづくり

駅を中心にして地域の人々の交流が活発化し、地域コミュニティがより一層活性化されている。そして、地域コミュニティを中心に積極的なまちづくりが進められ、コミュニティ形成モデル的拠点となっている。

◇居住者増によるにぎわい創出

名古屋へのアクセスのよさを活かし、中低層の共同住宅が増えるなど居住地としても発展し、まちに活気が生まれている。また、低層中心のまちなみ景観が継承され落ち着いた雰囲気も保たれている。

◇駅の交通結節機能の充実

市内各地を結ぶバス路線が確保され、駅の交通結節点としての機能が強まり、公共交通を利用した移動が便利になっている。

(2) まちづくりのイメージ

空間イメージ（土地・建物）

▽中低層中心のゆとりある市街地の形成

- ・戸建住宅や中層程度の共同住宅などを中心に、空間的なゆとりをもった快適な居住地となるよう市街地の形成を進める。また、街路樹の植栽など、緑化を推進し、緑豊かなまち並みを創出する。

▽空港移転補償跡地の有効活用

- ・駅の周辺に位置する跡地については、必要に応じて用途の制限を加え、生活利便施設の立地などを優先した土地利用を誘導する。

▽市街地の再生

- ・老朽家屋の建て替え促進などにより市街地の更新を図る。

機能イメージ（機能・施設）

▽駅舎東側からのアクセス通路の確保と周辺整備

- ・駅舎東側からの出入口の整備とともに、待車場や駐輪場の整備など、駅東地域住民の駅利用の利便性を高める。また、駅構内へのエレベーター設置などバリアフリー化を進める。

▽駅周辺へのサービス機能の誘導

- ・駅周辺の空港移転補償跡地を活用し、日常生活に必要な商店や病院など住民のためのサービス施設が立地するよう誘導し、まちの活性化を図る。

交通イメージ（公共交通、自動車、自転車、歩行者）

▽駅周辺交通環境の改善

- ・駅の快適な利用を促進するため、西側駅前広場や駐輪場などを含めた再整備を行う。
- ・駅前の道路を含めた周辺一帯の道路についての通行規制の見直し、周辺への駐車場の確保、さらには駅北側の踏切の拡幅などを行い、交通環境を改善する。

▽名古屋空港地区・周辺市街地とのバス交通等の充実

- ・開発が進むと見られる名古屋空港地区へのアクセス向上のため、県営名古屋空港や市街地とを結ぶバスの運行など、交通拠点機能の向上を図る。また、タクシー交通の充実も図る。

▽安全でゆとりある歩行・自転車の交通環境の確保

- ・地区内の道路について、歩行者や自転車が安全、そして安心して通行できるように適正な歩道の確保、バリアフリー化など交通環境を整備していく。

生活イメージ（生活・暮らし）

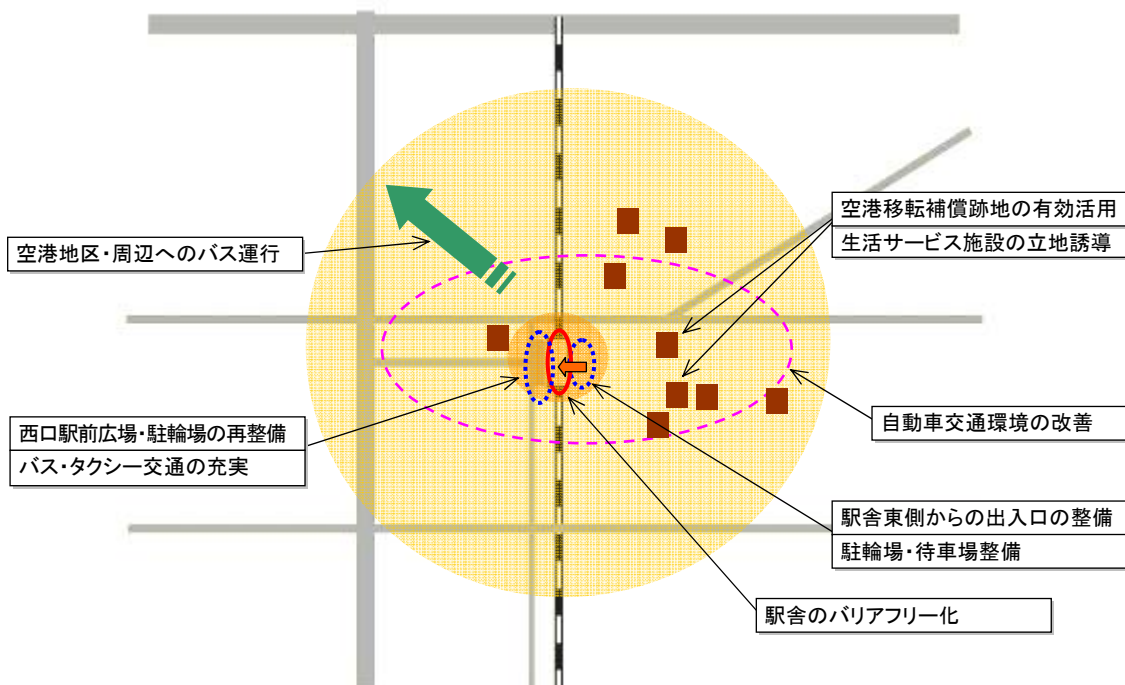
▽既存コミュニティの強化によるまちづくりの活性化

- ・町内会などの既存コミュニティを主体に、地区のさらなる活性化を図る。

▽防犯対策

- ・駅舎や構内通路などに、必要に応じて防犯カメラの設置を進める。

●将来イメージ図



【地区全体】

中低層のゆとりある市街地の形成
市街地の再生
居住施設の充実

安全な歩行者・自転車通行環境の確保

緑化の推進

防犯対策

既存コミュニティによるまちづくり